

レジャー活動における安全意識について
 一Stand Up Paddle Board (SUP) 参加者において一

○玉井久実代、後和美朝 [大阪国際大学]

キーワード：レジャー活動、安全意識

マリンスポーツの一つとして Stand Up Paddle Board (SUP) が広がりつつある。本研究では SUP を用いた子ども対象イベントにおいて、保護者 (12 名) を対象に海山川のレジャー活動における安全意識の調査を行った。

「日常生活の安全に関する知識」の平均得点は 2.67 点であるのに対し、「海山川のレジャー活動の安全に関する知識」の平均得点は 2.22 点で、日常生活より海山川のレジャー活動の安全知識の方が低い得点であった。「日常生活の安全に関する留意」の平均得点は 2.83 点であるのに対し、「海山川のレジャー活動の安全に関する留意」の平均得点は 2.33 点で、安全に留意しているのはレジャー活動の方が低い得点であった。日常生活の安全に関する知識と留意の平均得点の間、及び海山川のレジャー活動の安全に関する知識と留意の平均得点の間には大きな得点差はみられなかった。

以上のことから、レジャー活動の安全に関する知識や活動時に留意するかどうかは、日常生活よりも少ないことが考えられる。また、日常生活同様レジャー活動時も、知識の有無と留意するかどうかには差が無いことが明らかになった。

第二次世界大戦前の国立公園と厚生運動

加藤幸真 [日本大学大学院]

キーワード：国立公園、厚生運動、厚生省、日本

1872 年にアメリカ合衆国で初めて指定された国立公園 (National Park) は、日本にも紹介され 1931 年の国立公園法制定、1934 年の初指定へとつながった。日本の国立公園は、第二次世界大戦終戦までに 12 公園が指定され、台湾内の指定地も含め 15 公園が指定された。国立公園は 1934 年の雲仙、霧島、瀬戸内海の指定以降、順調に指定数を増やしていった。しかし、第二次世界大戦の戦局悪化に伴い、国立公園行政は縮小傾向にあった。国立公園行政は当初、内務省が所管したが 1938 年の厚生省設立に伴い厚生省に移管された。そのため国立公園は厚生運動の影響を受けることとなった。

そこで本研究の目的は、第二次世界大戦前の国立公園の展開と国立公園を所管する厚生省が主導した厚生運動との関係を考察することである。